みんぱく 公開講演会

民族×アートの現在

美をめぐる政治のゆくえ

2024年11月8日[金]

18時30分-20時40分（17時30分開場）

場　所：日経ホール（東京都千代田区大手町1-3-7日経ビル3F）

参加費：無料（事前申込み制）

定　員：600名（先着順）※手話通訳あり

主催　国立民族学博物館 National Museum of Ethnology　日本経済新聞社

民族の社会や文化に根付いたアートは、グローバルな社会構造のなかで周縁化されたマイノリティにとって、集団アイデンティティやルーツを再認識させる力がある。それゆえ、ナショナリズムや政治運動においても重要なメディアとなってきた。

しかし、歴史的に見ると、世界各地の民族のアートは、しばしば近代西洋の他者との出逢いによって「発見」され、植民地主義的なまなざしのもとで「エスニックアート（民族美術）」として成立してきたという背景がある。また、普遍的とされる西洋の芸術に対して、それらは民族の文化にもとづく特異な表現形態と見なされ、展示される場や消費される文脈が異なってきた。

博物館・美術館の脱植民地化が問われる今日では、民族とアートをめぐる批判的な再検討が進められている。本講演会では、アートという視点から、民族の文化をめぐる歴史と政治の複雑なかかわりを考えてみたい。

■プログラム

17:30 ● 開場

18:30 ● 開会挨拶　荻野雅史（日本経済新聞社大阪本社 編集ユニット長補佐）
挨拶　吉田憲司（国立民族学博物館長）

18:40 ● 趣旨説明　松尾瑞穂（国立民族学博物館・超域フィールド科学研究部・准教授）

18:50 ● 講演1　柳沢史明（西南学院大学・国際文化学部・准教授）
**「文化とアートを鋳直す
―植民地状況下のアフリカ・ダオメを例に」**

19:20 ● 講演2　鈴木紀（国立民族学博物館・超域フィールド科学研究部・教授）
**「誰が民衆芸術を作ったか
―ラテンアメリカにおける国家と作家の役割」**

19:50 ● 休憩

20:00 ● コメント　吉田憲司
パネルディスカッション
柳沢史明×鈴木紀×吉田憲司×松尾瑞穂

20:40 ● 終了

講演 1

柳沢 史明（やなぎさわ ふみあき）
西南学院大学・国際文化学部・准教授

専門は芸術学、植民地文化論。フランスと西アフリカの芸術や造形文化を主要な研究テーマとしている。著書に『〈ニグロ芸術〉の思想文化史』（2018年、水声社）、『アフリカからアートを売り込む』（共編著：2021年、水声社）がある。

講演要旨
アフリカのベナン（旧ダオメ）の土産物に真鍮製の小型像がある。この彫像の歴史や流通過程を振り返りつつ、そこから見えてくる民族的伝統と植民地化の力学についてお話したいと思う。

講演 2

鈴木 紀（すずき もとい）
国立民族学博物館・超域フィールド科学研究部・教授

専門は文化人類学とラテンアメリカ文化論。現在、ミュージアムスタディーズの立場から、ラテンアメリカの先住民族表象を研究中。国立民族学博物館の特別展『ラテンアメリカの民衆芸術』（2023年）を企画。
共編著に『古代アメリカの比較文明論―メソアメリカとアンデスの過去から現代まで』（2017年、京都大学学術出版会）など。

講演要旨
メキシコやペルーでは、多様な民族の優れた手工芸品を民衆芸術と呼ぶ。国家の芸術振興策に対する個々の作家たちの反応を見ることで、いかに民衆芸術が成立したかを考えたい。

司　会

松尾 瑞穂（まつお みずほ）
国立民族学博物館・超域フィールド科学研究部・准教授

専門は文化人類学。主な研究テーマはインドのリプロダクションとジェンダー、家族。著者に『ジェンダーとリプロダクションの人類学―インド農村社会の不妊を生きる女性たち』（2016年、昭和堂）、編著に『サブスタンスの人類学―身体・自然・つながりのリアリティ』（2023年、ナカニシヤ書店）など。

関連プロジェクト
特別研究「ルーツの政治学と共生の技法
―ポスト国民国家時代の民族と「歴史」」

申込方法

国立民族学博物館　クリック

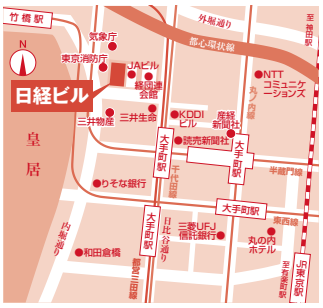
国立民族学博物館のホームページ内にある申込フォーム画面に従って必要事項をご入力ください。
https://www.minpaku.ac.jp/ai1ec_event/55138
令和6年10月3日（木）受付開始予定
※参加申込みされた方の個人情報は本講演会及び次回以降の講演会案内でのみ使用いたします。

お問い合わせ先
国立民族学博物館　研究協力課　TEL 06-6878-8209

講演会場

●東京メトロ
- 千代田線「大手町駅」神田橋方面改札より徒歩約2分
- 丸ノ内線「大手町駅」サンケイ前交差点方面改札より徒歩約5分
- 半蔵門線「大手町駅」皇居方面改札より徒歩約5分
- 東西線「大手町駅」西改札より徒歩約9分「竹橋駅」4番出口より徒歩約2分

●都営地下鉄
- 三田線「大手町駅」大手町方面改札より徒歩約6分



表写真：Edilberto Jiménez Quispe 作、レタブロ「ESATA DEMOCRACIA YA NO ES DEMOCRACIA（この民主主義はもはや民主主義ではない）」部分、2024年

VEGETABLE OIL INK
リサイクル適性Ⓐ この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。